

憂^{モウ}鬱^{モウ}でな
ければ仕
事じやない

幻冬舎代表取締役社長

サイバーエージェント代表取締役社長

見城徹 + 藤田晋



憂鬱でなければ、仕事じゃない

見城 徹 + 藤田 晋

講談社+α文庫

見城 徹—1950年静岡県に生まれる。慶應義塾大学法学部卒業。75年角川書店入社。93年同社を退社し、幻冬舎を設立。2003年ジャスダック上場。2011年MBOにより上場廃止。著書には『編集者という病い』『異端者の快楽』などがある。

藤田 晋—1973年福井県に生まれる。青山学院大学経営学部卒業。97年インテリジェンス入社。98年同社を退社し、サイバーエージェントを設立。2000年史上最年少26歳で東証マザーズ上場。著書には『渋谷ではたらく社長の告白』『藤田晋の仕事学』『藤田晋の成長論』『起業家』などがある。

講談社+α文庫 ^{ゆううつ}憂鬱でなければ、^{しごと}仕事じゃない

^{けんじょう}見城 徹 + ^{ふじた}藤田 晋 ©Toru Kenjo / Susumu Fujita 2013

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

2013年6月20日第1刷発行

発行者——鈴木 哲

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部(03)5395-3529

販売部(03)5395-5817

業務部(03)5395-3615

デザイン——鈴木成一デザイン室

カバー印刷——凸版印刷株式会社

印刷——慶昌堂印刷株式会社

製本——株式会社国宝社

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料は小社負担にてお取り替えます。

なお、この本の内容についてのお問い合わせは

生活文化第二出版部あてにお願いいたします。

Printed in Japan ISBN978-4-06-281521-5

定価はカバーに表示してあります。



憂鬱でなければ、仕事じゃない 目次

まえがき 藤田晋 3

第一章 人としての基本

小さなことにくよくよしろうよ 14

かけた電話を先に切るな 20

自己顕示と自己嫌悪は「双子の兄弟」 26

努力は自分、評価は他人 32

正直一番、正々堂々 38

第二章 自分を鍛える

スムーズに進んだ仕事は疑え 46

パーティーには出るな 52

「極端」こそわが命 58

苦境こそ覚悟を決める一番のチャンス 64

これほどの努力を、人は運という 70

ピカソのキュビズム、ランボーの武器商人 76

ふもとの太った豚になるな 頂上で凍え死ぬ豹になれ 82

憂鬱でなければ、仕事じゃない 88

第三章 人心を掴む

切らして渡せなかった名刺は速達で送れ 96

天気の話でコミュニケーションを図るホテルマンは最低である 102

行く気がないのに、今度、飯でもと誘うな 108

初対面の相手と、カラオケには行くな 114

刺激しなければ、相手の心は握めない

120

第四章 人を動かす

頼みごと百対一の法則

128

無償の行為こそが最大の利益を生み出す

134

天使のようにしたたかに 悪魔のように繊細に

140

良薬になるな。劇薬になれ

146

他者への想像力をはぐくむには、恋愛しかない

152

第五章 勝ちに行く

すべての道は自分に通ず

160

顰蹙は金を出してでも買え

166

打率三割三分三厘の仕事哲学

172

「この世あらざるもの」を作れ
無謀を演出して、鮮烈に変えよ

ヒットは地獄の始まり

190 184 178

第六章 成功への動機付け

勝者には何もやるな

198

ノー・ペイン、ノー・ゲイン

204

スポーツは、仕事のシャドー・ボクシングである

210

ワインは、働く男の「血」である

216

「京味」に行けなくなったら、仕事はやめる

222

男子たるもの、最後の血の一滴が流れるまで、戦い抜け

228

あとがき 見城 徹

234

憂鬱でなければ、仕事じゃない

見城 徹＋藤田 晋

講談社＋α文庫

まえがき

藤田 晋

「三十代になってから一番影響を受けた人物は見城さんかもしれないな」

顧問を務める山形の東北芸術工科大学に、新幹線に乗って見城社長とふたりで行った帰り道、一人になってふとそう思いました。

二十代のころ社会に出てがむしゃらに仕事を始めてから、ずっと心の中に引っかかっていたものが二つありました。それは「凡庸なもの」「表面的なもの」とどう付き合うかということ。組織の中で個性を失い、社会からはみ出さないよう保守的になって、企業人として上辺の付き合^{うわべ}いだけが増えていく――。企業社会で生きていけば、自然に発生する負の側面のようにも感じていましたが、僕はビジネスマンとして人生を歩んでいく上でどうも釈然とせず、自分の態度はどうあるべきか戸惑っていました。

見城社長は、そういった疑問に対して何が大切で無駄か、初めてはっきりと僕に

教えてくれた人でした。

見城社長と初めてゆっくり話をしたのは、二〇〇五年の春。作家の五木寛之先生を交えた会食の席で、僕が三十一歳の時でした。その頃僕はインターネットの広告代理店事業からメディア事業（Ameba）への脱皮を図っていて、インターネットにおけるコンテンツはどうあるべきか、先が見えない中で必死に答えを探していました。既存メディアとインターネットで変わるもの、変わらないものを見極めたいと考えていたのです。

その後、幻冬舎との業務提携やアマーバックス新社の合併設立などの仕事を通じて見城社長から学んだコンテンツのあり方は、普遍的なものでした。もちろんネットならではの決定的な特性はあります。しかし、みんながテレビや出版物で見たいものとネットで見たいものは、本質的には何も変わらないのです。そればかりが能動的にアクセスし、クリックひとつで飛んでいけるネットの世界では、既存のメディア以上に凡庸なものは見向きもされないことがよくわかりました。

またその頃、僕は二十世紀型の日本的経営を参考にした組織づくりに着手しまし

た。チームの和を大切にし、福利厚生に力を入れ、サイバーエージェントを長く働ける会社にしようと舵^{かじ}を切ったところでした。当時は終身雇用、年功序列が崩壊したと言われ、成果主義でドライな社風の会社が増えている中、あえて時代に逆行する道を選んだのです。

ネットのようなデジタルな世界で仕事をしていると、つい合理性だけを突き詰めて人間関係が希薄になりやすい。実際僕が二十代だった頃のサイバーエージェントは、一時的にそのような時期がありました。しかし、ビジネス社会は人間社会であって、お互いの信頼、信用なくしては成り立ちません。実際、仕事は人間的で泥臭いものであり、義理や人情抜きで成功することはありえない。それはデジタルの世界でも変わらないし、若い世代が中心の会社であっても同じことです。

次第に僕は、仕事において表面的ではない真心のこもったコミュニケーションで信頼関係を築くことが、何より大切であると確信を持つようになりました。

また、僕は三十代になり、人付き合いを考え直さなければならぬ時期を迎えていました。二十代の頃は先入観を持たずたくさんの人とどんどん会っていました。が、そのせいで目の前の付き合いをこなすだけで精一杯になり、真のキーパーソン

との時間が十分に確保できなくなっていたのです。

仕事における人付き合いのあり方について、僕は特に見城社長から強い影響を受けました。そうした目から鱗うろこが落ちるような言葉が、この本にたくさん登場します。

この本の見出しに出てくる数々の珠玉の言葉は、すべて見城社長のものです（自筆です）。時に、文学的で情緒的な見城社長の言葉に、本人が自己解説し、そこに実体験を交えた僕なりの解釈を若い人にわかりやすく書き添えた構成になっています。

タイトル『憂鬱ゆううつでなければ、仕事じゃない』は、以前、アマーバックス新社の役員会議を行っている時に見城社長の口から飛び出した言葉です。それを僕がツイッターに書き込むと驚くほどの反響を得ました。おそらく多くのビジネスマンにとって、救いになる言葉だったのでしょう。

二〇一〇年後半から二〇一一年三月十一日まで、この本のために毎週のように見

城社長と打ち合わせを重ねてきました。この本の製作過程は、それ自体を心から楽しめるもので、僕くらいの年代の経営者ではまず得られないような貴重な経験だったと思います。

このまえがきを書く前に、僕は出来上がった原稿を何度も読み返しました。そして見城社長と話していた時に感じた、仕事というものの面白さや奥深さが蘇よみがえってきました。僕自身にとってもこの本が、今後の人生のバイブルになるのはまず間違いないと思います。

憂鬱でなければ、仕事じゃない 目次

まえがき 藤田晋 3

第一章 人としての基本

小さなことにくよくよしろうよ 14

かけた電話を先に切るな 20

自己顕示と自己嫌悪は「双子の兄弟」 26

努力は自分、評価は他人 32

正直一番、正々堂々 38

第二章 自分を鍛える

スムーズに進んだ仕事は疑え 46

パーティーには出るな 52

「極端」こそわが命 58

苦境こそ覚悟を決める一番のチャンス 64

これほどの努力を、人は運という 70

ピカソのキュビズム、ランボーの武器商人 76

ふもとの太った豚になるな 頂上で凍え死ぬ豹になれ 82

憂鬱でなければ、仕事じゃない 88

第三章 人心を掴む

切らして渡せなかった名刺は速達で送れ 96

天気の話でコミュニケーションを図るホテルマンは最低である 102

行く気がないのに、今度、飯でもと誘うな 108

初対面の相手と、カラオケには行くな 114

刺激しなければ、相手の心は掴めない

120

第四章 人を動かす

頼みごと百対一の法則

128

無償の行為こそが最大の利益を生み出す

134

天使のようにしたたかに 悪魔のように繊細に

140

良薬になるな。劇薬になれ

146

他者への想像力をはぐくむには、恋愛しかない

152

第五章 勝ちに行く

すべての道は自分に通ず

160

顰蹙は金を出してでも買え

166

打率三割三分三厘の仕事哲学

172